

3.11 メモリアルネットワーク第 2 回伝承シンポジウムに参加しました(2019/03/23)

テーマ：災害伝承

場所：宮城県庁（宮城県仙台市）

3月23日（土）、宮城県庁 2 階講堂にて、「3.11 メモリアルネットワーク」主催で、「3.11 メモリアルネットワーク第 2 回伝承シンポジウム」が開催されました。3.11 メモリアルネットワークは、東日本大震災の伝承活動を行う個人、団体、震災伝承拠点をつなぐ広域ネットワークで、個人会員 394 名・会員団体 84 団体（2019 年 3 月 16 日現在）からなります。3.11 メモリアルネットワークの活動は、以上の会員どうしが協力する「プロジェクト」が基本的な活動になっており、1 年間の活動報告や今後の在り方を議論するのが、このシンポジウムになっています。

第 2 回のシンポジウムは、稲むらの火の館・崎山光一館長を招いた特別講演、20 代で「伝える」活動をしているメンバーによる、若者トーク「わたしたちはなぜ伝えるのか?」、4 名の登壇者を迎えたパネルディスカッション「響き合うために」からなります。当研究所の佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）は、最後のパネルディスカッションにてファシリテーターをつとめました。今回は、「響き合うために」をテーマに、3 県の代表者<岩手：元田久美子氏・一社)宮古観光文化交流協会 学ぶ防災ガイド、宮城：山縣嘉恵氏・野蒜まちづくり協議会 副会長、福島：里見喜生氏・いわき湯本温泉「古滝屋」16 代目当主>から自身や地域の活動を、また、後半は特別講演の崎山光一氏もまじえて、今後の連携の在り方について議論しました。全国から約 160 名の参加となり、盛会となりました。



会場の様子・崎山光一館長（特別講演）



パネルディスカッションの様子



佐藤翔輔准教授

(パネルディスカッション・ファシリテーター)

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）